凍ったじゃがいも　ー防災マニアだよりー

ありよし きなこ

北の小屋にひと月半ぶりに訪れた。十二月の中頃。室温計はマイナス八度を指している。円筒形のコロナストーブに張り付くこと三時間。寒くて動けない。夏に畑で採れたじゃがいもを、断熱材を詰めたダンボール箱に入れておいた。無事でいるか、確かめることもままならない。

網走郡の小さな町に土地を買い、小屋を建ててから三年ほどになる。内装の段になって資金は尽き、それからは少しずつ自分で造作している。マイナス二十度になることもある極寒にそなえ、室内側の壁をふかし（厚くする）、窓ガラスならぬアクリルを二重三重にはめ込み、床に広葉樹の無垢板を敷き詰める。丸ノコなど、おっかなびっくりで始めた電動工具の作業で、たくさんの端材が出る。引退した大工さんに煙突をつけてもらい、ホームセンターで調達した鉄板の薪ストーブを屋内焼却炉として活用し、そこに端材だの紙くずだのを放り暖をとる。

冷え性気味で、気温が零下になる地域で生活するようになるとは、どういう風向きか、いや、これまでの人生、いつも行き当たりばったりだったのだから、成り行きだというしかない。住まいが別の場所にもある、行くところがあるのは、いつだっていいことだ、かな。

この体験をブログにつづったことがあり、拾ってみる。

☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

「どんなに幸せになっても、他に幸せを探してしまう」

そんな人の性（さが）をハッピー・マニアと表現した漫画がありました。マニアとは探し求める態度です。

私は防災マニアだと自認しております。

防災品マニアではなくて防災マニア、防災用品や非常食料のメーカーや仕様にこだわりはない。

地震予報の web マガジンを購読し、物置に数日を生き残るための日用のあれこれを置いておく。

水よし、非常食よし、トイレットペーパーよし、簡易トイレよし、電池よし、携帯ラジオよし、ヘルメットは枕元にある。

だがしかし、食料自給率（生産額ベース）統計を見てうなる、日本は六十五パーセント、東京は七パーセント。

防災マニアであり都民である私の眉根は寄った。

☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

登記簿の地目が「原野」と表記された土地にクワの刃を振るい続けて、三年目にしてやっと、畑に取り掛かることができた。近隣の農家さんで自然農の方から、いろんな品種の種芋を頂戴する機会に恵まれる。きたあかり、さやあかね、とうや、ノーザンルビー、シャドークィーン。在来種取り扱いの種屋で買った種も蒔いてみる、トマト、とうきび（トウモロコシ）、枝豆、ウリなどなど、それぞれそれなりに実ったり、実る前に北国の短い夏が終わったりだった。めんこいなあ、と蒔いてみたひょうたんが一番の豊作となった自給自足もどき。

夏は、ご近所さんからの頂き物が多い。なりすぎた野菜のほか、シャケにホタテ、味噌、漬物、おはぎに天ぷらなど。先日、じゃがいもを箱でいただいた。今は冬だ。小屋での冬は今年が初めてというわけではな

いけれど、寒い時季は何かと勝手が違い、小さなしまったを繰り返す。しばらく小屋を離れ、クルマのバッテリーが凍りついたこともあった。冬に留守にするときは、断熱材をぐるぐる巻きにしておく。ガレージは無い。吹きっさらし。ひとくちに北海道といってもエリアによっては気候が違う。札幌などの地方は豪雪地帯だけど、こちら道東は総じて少ない、昨晩からの雪で、小屋の裏手、向こうの林につづく雪野原に見えていた狐の足跡がうっすらと消えかけている。

しかし、零下の暮らしはなかなか身につかないもので、頂戴したじゃがいもの箱を、二～三日クルマの中に置いたままにしてしまった。日中の最高気温でさえ、氷点下の日々、芋たちは水分が抜けてふにゃふにゃになってしまっていた。

凍ったじゃがいも、ネットで検索して対処法を得る。スープ、マッシュポテト、など、それなりにいただけることがわかった。

この暮らしの何がいいかって、いつだってストーブの火があって、鍋をかけておけるということなんだな。